

【熊本 SJCD 例会 抄録】

演題 重度に吸収した歯槽堤へのインプラント修復治療

演者名 関 喜英

日付 2012年10月23日

keyword

- 1 欠損部歯槽堤への対応
- 2 GBR、結合組織移植
- 3 インプラント

【抄録】

重度の骨吸収が見られる欠損部にインプラントを埋入する場合、GBR やスプリットクレスト、結合組織移植等の硬軟両組織に対する処置が必要となる。

本症例では、初診時、23に歯周病と咬合性外傷によるものと思われる歯槽骨の重度の吸収と動揺がみられ、保存不可能な状態であった。全顎的に軽度から中等度の歯周病であったため、まずは歯周初期治療、確定的歯周外科を行った。23の歯槽堤は重度に骨吸収していたが、患者は欠損部位へのインプラント治療を希望していたため、同部位へのGBRを行い、その9ヶ月後にインプラント埋入を行った。さらに、そののち、軟組織の不足を補うために結合組織移植を行った。現在、プロビジョナルレストレーションをセットし、経過観察中である。

基礎資料の不足や、診断の甘さばかりが目立つ症例発表になるかと思いますが、会員の先生方のご意見を頂き、今後の臨床に役立てていこうと思います。